

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170100960), 法人名 (株式会社 進幸), 事業所名 (グループホーム ピアハウスPOP), 所在地 (札幌市北4条西16丁目1-3 幌西ビル2階), 自己評価作成日 (平成29年9月10日), 評価結果市町村受理日 (平成29年11月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員のスキルアップに力を入れてより良い介護が出来るように努力しています。月1度の社内研修では外部講師を招いて、実践的な研修を行っており、スタッフのほぼ全員が実務者研修を受講し、本年度は5名の職員が介護福祉士の試験に挑戦します。特徴として障害のある介護士が就労していますが、支援する側・される側の垣根を越えて、入居者やスタッフ間もとても良い関係が築けています。ですから当施設はスタッフの離職率がたいへん低く、皆んなが感謝の気持ちを持って働いています。入居者の皆さんは、週に4回本社から派遣されてくる、体操のインストラクターによるトレーニングを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年10月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部に近く、商業地区に建てられた高層マンションの2階部分を使用しており、同社の有料共同住居とデイサービスが同じ階に併設されている。当事業所の運営母体では高齢者や障害者といった社会的な弱者を根底から支える視点で居宅事業所や訪問介護、障害者就労事業、保育所等々を札幌と苫小牧で展開しており、当事業所も障害者を雇用し高齢者と障害者との共用・協働を実践している。当事業所の優れた点は、障害者雇用による新しい関係性の構築を挙げられる。支援する人、支援を受ける人との溝が障害者の稼働により目立たなくなり、相互に対等で信頼性のある関係が定着しつつある。2番目に、活動量の多さを挙げてみたい。例えば体操インストラクターによるヨガ体操は毎週4回から5回行われており、その他にも色々なボランティアが訪れ、一階の保育園からも元気な笑顔の訪問客が絶えない状況である。3年目を迎えた管理者の地道な努力が開花しつつある当事業所の今後におおいに期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を作成し、フロアに提示して全職員で共有している。	事業所の理念は事務室に掲示されており、職員のみならず外部の人にも目に入るように配慮し、共有し実践に活かせるよう臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々がボランティアで月1回程度、お菓子作りに來たり、事業所としては町内会の花植えや生ゴミで堆肥を作ってエコに貢献している。	地域の保育園児やボランティアの皆さんの定期、不定期での来所があり、また事業所でも地域貢献の方法を検討し、花植や堆肥の提供にて交流を促進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、運営推進会議を通して事業所の活動等について報告している。大学や高校の実習生を積極的に受け入れて協力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所の取り組み等について報告し、参加者からの事故防止等についての提案を実践するなど、サービスの向上につなげている。会議の議事録を家族や関係機関に送付しています。	地域町内会や包括、予防センター等の参加により、推進会議は定期的開催され、議事録も関係機関や家族宅に送られ、開かれた事業所としてサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多くいるので、必要ときには区の担当者と連絡を取っている。市の担当者とは連絡は取れていませんが地域包括支援センターの職員とは運営推進会議で連絡をとっています。	介護の更新申請時や各種行政との会合等で情報交換に努めている。また生活保護のケースワーカーとも密接に関わり、良好な関係性を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待について外部研修に職員が参加し、研修報告等を行い、職員全員で取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず常に外出したい方がいるときには同行させて頂いています。	マニュアルや研修で座学として習得しながら、実践の場で活かしているが、グレーの行為や不適切な言葉使いにはその場で手遅れにならないように注意し、抑制のない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待について参加し、研修報告等を行い、職員全員が虐待について理解を深めることができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者2名が成年後見人制度を利用中。後見制度についての理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明し理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された際にはお気づきの点等ないか確認し、ご意見・要望をいただいた時には全職員に周知し、運営に反映させるよう努めている。利用者からの要望についても同様に対応している。	家族の来所持にご意見や要望を伺っている。寄せられた意見は会議等で周知し、サービスに反映させている。	家族からの意見聴取には、利用者の情報を多く発信する事が不可欠のため、無理のない形態で、お便りの発行に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議を開催した際に職員の意見を聞き取り反映させている。また、管理者を通じて代表者にも意見を届けている。	研修の参加回数が増えたためか、職員からの意見や提案、アイデアが出てくるようになり、代表者にも意見を届け、今後のケアサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を見極め、強いストレスを感じることのないシフトを作成しており、職員の休憩室の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	殆どの職員が実務者研修を受講し、本年スタッフ全員が介護福祉士に挑戦する事になっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やスタッフがグループホーム協会の勉強会に参加し、地域医療連携ケア連絡会議にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい入居者2名が入りましたが、併設するデイサービスに通っていた人なので馴染みの関係が出来ていて本人スタッフ共に安心した環境でケアが行われています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来訪時は、要望等をお聞きし誠実な対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援は何か、介護職員からの視点とすり合わせ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にはホーム中で役割をもっていただき、感謝の気持ちを持って利用者と接するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途切れることのないよう、ご家族にも負担なく来訪していただけるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく生活習慣を変えないよう努めている。なじみの人や場所へ出かけたり出来るように支援している。	生活習慣を変えない、を介護の基本としており、利用者によっては従前の床屋さんを希望する場合もあるため、家族と協力して関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合ったりする場面もみられる。フロアでの座る位置や食堂の場所など配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族が運営推進会議などに継続して参加して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと向き合う時間をつくり、生活歴や今後の希望について聞き取れるように努めている。コミュニケーションが取れない場合は、生活歴やご家族の意向を踏まえ、本人本位に検討している。	職員が積極的に寄り添い、時間を共にする中から望みや意向の把握に努め、本人の気持ちを大切に尊重するように介護に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的なかかわりの中で、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけており、個別に外出に出かけたり、美容室、カラオケに同行する等の支援をおこなっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制としてアセスメント、モニタリングを全職員が行い、介護計画に反映するよう努めている。	担当制を布いており、随時モニタリング結果を論議し、介護計画に盛り込んでいる。計画の見直しは3ヶ月ごととしているが、病変等、現状に即して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について記録し、全職員で情報共有している。変化があれば介護計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内に有るデイサービスの行事に参加するなど多機能性を活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの訪問があり、お喋りしたり、行事の飾り付けやおやつ作りなどを行っている。また、町内会の花壇づくりにも参加し、散歩の折に花を見て楽しんだ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用し、緊急時に相談したり指示を仰いでいる。また、長年通いなれた通院先へ付き添い適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者・家族の希望を受け入れ、馴染みの医療機関への受診を支援している。状態により往診体制も整えており、適切で的確な医療を受けられるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来訪し、体調管理を行っており、受診などについて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院中にも面会し看護師からの情報収集を行っている。また、退院時には本人の状態を確認し、看護添書をいただくなど連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の方針についてはご家族や本人との十分な話し合いを行っていないが、今後は訪問診療との連携を図り、勉強会を行っていく予定である。	入居時に書面をもって看取り介護を説明している。研修にも取り上げ、チームとして取り組めるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練を実行している。事故が起こった際の対応について都度職員と話し合いを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は2回火災訓練を実施。地震、水害等については避難経路を確認等を行っている。消防の予防課を招いて講習会を行ったり、スタッフを防災訓練に参加させるなど力を入れています。	年に2回の避難訓練を消防署の指導により実施している。冬季の災害に備えて、カセット式の暖房器も用意し、不慮の事故に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては信頼関係に係ることとして十分な配慮をもって対応している。	利用者の気持ちに沿って、日常生活を支援しており、介護者の都合による指導指示、誘導を避け、誇りや尊厳を侵さない介護に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が訴えや希望を表すことができるよう聞く姿勢をもって対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせるよう心がけていて食事時間や入浴日なども希望を取り入れていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けなど職員と利用者で共に作業を分けて行っている。又調理の下ごしらえや盛り付けなども出来る方には手伝って頂いている。	食事の献立は作らず、利用者の希望と食材を吟味して食事の支援をしている。調理から後片付けの各過程で、利用者の自主参加もあり、楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えてメニューを作成している。摂取量を記録し、過不足を確認している。また、喉詰まりやむせがない食形態はそれぞれに合わせて作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕口腔ケアを行っている。自分でできない利用者は職員が介助している。必要な方には週1回訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1時間半～2時間毎にトイレ誘導を行っている。少しでもトイレで排泄していただけるように支援しています。	排泄はトイレで、を基本として排泄の支援を行っており、時間誘導を中心に利用者の排泄サインを見落とさないよう、無理のない排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使った献立を作成し、水分摂取を促している。3日以上排便がない場合は下剤や浣腸を行い、排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望は最大限に尊重しながら、週2回の入浴を実施している。	週に2回を最低のラインとし、イレギュラーの入浴意向も尊重しながら、楽しいお風呂、になるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後に昼寝の時間を設けている。また、ベットメイクやシーツ交換、寝具の調節等行い、安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルし、全職員が閲覧できるようにしており、処方の変更になった場合は職員に周知し、状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を行っており、近くのコンビニへ買い物に行ったり、天候と体調をみて散歩に出かけるなどしている。また、個別に外出に出かけたり、買い物などに出かけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿う事は出来ないが散歩や買い物に出かけられるよう努めている。	散歩のために班長を任命し、積極的に外出の機会をつくるように取り組み、季節のドライブの他、近くのミニ大通があり、活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、しまい忘れ等による紛失が懸念されるため本人管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	さまざまな個人の情報が有り、電話や手紙のやりとりの支援はほとんど行っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェック表を作成し環境設備を行っている。ボランティアが季節の飾りつけを行っている。部屋によって温室に差があり、補助暖房で対応している。特に浴室は入浴前に暖房を入れておくなど配慮しています。	共同空間の居間は開放的で広く、温度や湿度にも神経が行き届いており、過ごしやすい工夫がなされている。居間の一角には畳のスペースも用意され、イベント等に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビング・居室などそれぞれの場所で好きなようにくつろいでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていたものを持ち込み、使用している。	居室は馴染みの家財や小物類もあり、ゆっくりと自室として過ごせるような工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等設置しているが、個々に合わせたものではないため立ち座りや移動時に本人の機能を活かしていないと感じることもある。		